

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	kikidas(きぎだす)プロジェクト ～木々(きぎ)を出す(だす)、地元から聞き出す(きぎだす)、そして森林の危機(きぎ)を脱す(だっす)る!～		
(2) 実施団体名	湖東地域材循環システム協議会	(3) 対象地域	滋賀県湖東地域(日野町、東近江市、多賀町、愛荘町、彦根市)
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	

(6) 実施した取組の内容	取組①	Kikidasペーパーの試作	
	実施主体	＜マネジメント部会担当＞ 有限会社A. SITE、株式会社マルト、株式会社地球の芽、大滝山林組合等	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: クレジット方式を活用した紙製品の試作とアドバイザーを招いて意見交換会の開催 ・実施時期: H20年11月～H21年2月 ・実施場所: コクヨ工業滋賀、東近江地域振興局 ・目的: 地域材商品の開発と普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: クレジット方式を活用した紙を使ってノート、コピー用紙、封筒、紙バックを試作。紙製品を扱う企業と今後の事業展開について勉強会開催 ・実施時期: H20年10月～H21年2月 ・実施結果: ノート、コピー用紙の試作だけでなく、封筒や紙バックの試作にも取り組み、その販売・流通について関西圏で地域連携を進める検討に入った。
	取組②	ペレットストーブモニター試験	
実施主体	＜ウッドワーク部会担当＞ 大滝山林組合、関西産業株式会社、湖東地域振興局等		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 滋賀県版ペレットストーブのモニター試験。地域の大滝ペレットの成分分析、燃焼灰解析。 ・実施時期: H20年11月～H21年2月 ・実施場所: 関西産業、湖東地域振興局 ・目的: 湖東地域の木質バイオマスエネルギーの性能調査と啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 関西産業本社および普及啓発を兼ね菜の花館でモニター試験を実施。大滝ペレットおよびその燃焼灰の分析を実施。 ・実施時期: H20年10月～H21年2月 ・実施結果: モニター試験では、運転の課題を修正。各種イベントに参加し滋賀県版ペレットストーブ、大滝ペレットを展示し普及啓発を行った。 	
取組③	プロダクトデザインの提案		
実施主体	＜ウッドワーク部会担当＞ 大滝山林組合、滋賀県産間伐材有効利用促進グループ、校倉ハウスの会等		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 地域の技術で新たな地域ブランドの商品化 ・実施時期: H20年9月～H21年2月 ・目的: 地域ブランドとなる商品の試作 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 地域ブランド「kikito」の提案。kikitoブランドの商品の試作 ・実施時期: H20年9月～H21年2月 ・実施結果: 「kikito」のコンセプトに見合う商品として、kikito box、棺を試作。商品の販売実験のため地元温泉等に売り場を確保(販売実績150個) 	
取組④	材の規格化と性能評価		
実施主体	＜ウッドストック部会担当＞ 淡海里の家事業協同組合、箕川育林組合等		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: スtock材料の規格化の提案。地域材の性能評価。 ・実施時期: H20年9月～H21年2月 ・目的: Stock材の規格を決め、無駄をなくす。地域材の性能を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 地域材の調達から地域に合ったStock材料の規格化の提案。地域材の含水率、強度試験を実施。 ・実施時期: H20年9月～H21年2月 ・実施結果: 原木の伐採現場で地域材の特徴を聞き取り、無駄を少なくする規格を提案できた。地域材性能の特徴をPRし、地域材活用につなげる。 	
取組⑤	地域材を活用した新築もしくは耐震改修の環境負荷概算と事業計画策定		
実施主体	＜マネジメント部会担当＞ 有限会社A.SITE、淡海里の家事業協同組合等		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 地域材を活用した新築もしくは耐震改修のモデルプラン策定。環境負荷等の概算。 ・実施時期: H20年10月～H21年2月 ・目的: 地域材を建築に活用するためのモデルプランを提案し、地域材の地域での利用促進に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 2タイプの改修プランの検討、改修効果検証、環境負荷比較評価 ・実施時期: H20年10月～H21年2月 ・実施結果: 地域材を活用したプランを提案できた。環境負荷の貢献度合いを評価することができ、地産地消の木材利用が環境に貢献することを明確化できた。この成果を「見える化」することで地域材の利用促進につなげる。 	

<p>取組⑥ 実施主体</p>	<p>環境評価のローカルルール検討 ＜マネジメント部会担当＞ 有限会社A.SITE、NPO法人カーボンシンク、東近江地域振興局等</p>									
<p>実施内容、 実施結果</p>	<p>当初提案により予定していた計画 ・実施内容：専門委員会を設置し、森林吸収量の認証など地域のルールを提案。 ・実施時期：H20年9月～H21年3月 ・目的：カーボンオフセットや企業のCSRとして提案し、山と街をつなぐ仕組みとして活かす。</p>	<p>実際の取組内容及びその結果 ・実施内容：専門委員会を設置し、「びわ湖の森CO2吸収認証制度」のルールを決定。琵琶湖環境ビジネスメッセのカーボンオフセットとして試行事業を実施。 ・実施時期：H20年9月～H21年3月 ・実施結果：ローカルシステムを提案したことで、地域の森林整備に対する企業のメリットが明確化。今後のパートナー協定のインセンティブとして活用することで、木材の販売以外に経済的に「山へかえす」仕組みが出来た。</p>								
<p>取組⑦ 実施主体</p>	<p>持続的な森林資源の活用のための現況調査 ＜ウッドストック部会担当＞ 淡海里の家事業協同組合、ありがとう森林ボランティア、永源寺町森林組合等</p>									
<p>実施内容、 実施結果</p>	<p>当初提案により予定していた計画 ・実施内容：地域の森林の境界確定および森林資源量の調査 ・実施時期：H20年9月～H21年2月 ・目的：持続可能な森林管理に必要な利用計画を策定する</p>	<p>実際の取組内容及びその結果 ・実施内容：地域の森林の境界確定および森林資源量の調査を実施するための集落会議開催。現地調査を踏まえ作業路を開設、それに応じた利用計画の策定。 ・実施時期：H20年9月～H21年3月 ・実施結果：東近江地域の現況調査を行うことで木材利用に関する地域の理解を得るためのノウハウを習得。小規模所有者の取りまとめを更に進めることができる</p>								
<p>取組⑧ 実施主体</p>	<p>事業化に向けた団体の企画提案およびトータルコスト調査分析 ＜マネジメント部会担当＞有限会社A. SITE、(株)地域計画建築研究所</p>									
<p>実施内容、 実施結果</p>	<p>当初提案により予定していた計画 ・実施内容：団体の企画を提案。各取組のコストや実現可能性の調査結果を分析し、森林管理から木材の伐採、搬出、運搬、加工に関するトータルコストを分析。 ・実施時期：H20年9月～H21年3月 ・目的：各取組が地域で完結することの効果を分析する</p>	<p>実際の取組内容及びその結果 ・実施内容：kikitoプロジェクトの基本的考え方、各プロジェクトの方向性提案。協議会と各事業主体の関係性等体制の提案。各プロジェクトの事業性及びkikitoプロジェクトトータル山へかえす量等のマクロバランスの分析。 ・実施結果：各取組の個別コスト分析はできた。それを踏まえて、地域に根ざしたバランスの検討が進められ、山へかえす量的な提案が可能となった。</p>								
<p>(7)実施体制</p>	<p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担 本協議会は、各種業種24団体で3つの部会を設置し、具体的な事業化に向けた調査検討を行った。 ○マネジメント部会(取組①、⑤、⑥、⑧担当)協議会の企画調整、取組全体調整 ○ウッドストック部会(取組④、⑦担当)森林管理と材の流通・加工について調整 ○ウッドワーク部会(取組②、③担当)地域ブランドの提案、新たな商品開発</p> <p>取組の実施を踏まえた反省点 取組①紙製品の試作から事業化するには、流通・販売が重要な課題となり、当初計画になかったザ・バック株式会社と関西圏で地域連携することとなった。 取組③プロダクトデザインを提案するにあたり、地域ブランドのトータルコンセプトを決定する必要が出てきた。新たなワーキンググループを設置し、計画になかった有限会社ワイブの協力により、「kikito」が提案され、地域ブランドが誕生しプロダクトデザインの提案ができた。</p>									
<p>(8)取組により得られた成果</p>	<p>○成果1→ 地域材の循環利用を実現するための拠点づくりを行う(地域材の小規模流通拠点の数)</p> <table border="1" data-bbox="302 1029 2038 1093"> <tr> <td>H19</td> <td>H20(当初予定していた目標)</td> </tr> <tr> <td>0箇所</td> <td>東近江市および多賀町で1箇所ずつ、合計2箇所を設定する</td> </tr> </table> <p>H20(実際に得られた成果) ○丸太のストック拠点：東近江市内では、永源寺町森林組合、多賀町内では、株式会社マルトの土場を設定 ○半製品のストック拠点：製材所を基本とする(長谷川林材、株式会社マルト) ○広葉樹(薪等)のストック拠点：永源寺町森林組合、綿向生産森林組合土場を設定</p> <p>○成果2→ 地域材商品を応援するサポーター企業・団体を増やす。(地域材商品を購入もしくは販売するのに協力を約束してくれる企業等の数)</p> <table border="1" data-bbox="302 1236 2038 1300"> <tr> <td>H19</td> <td>H20(当初予定していた目標)</td> </tr> <tr> <td>家具、住宅取扱業者で4社</td> <td>紙の購入、その他商品の販売等で協力業者を募り30社へ</td> </tr> </table> <p>H20(実際に得られた成果) ○kikitoペーパーとして提案することで、ザ・バック株式会社および滋賀グリーン購入ネットワーク、中小企業家同友会のから協力業者を募ることができた(約25社)。 ○商品の販売について、地域の商店等(3者)、地域外の店舗(2者)の協力を得られている。</p>		H19	H20(当初予定していた目標)	0箇所	東近江市および多賀町で1箇所ずつ、合計2箇所を設定する	H19	H20(当初予定していた目標)	家具、住宅取扱業者で4社	紙の購入、その他商品の販売等で協力業者を募り30社へ
H19	H20(当初予定していた目標)									
0箇所	東近江市および多賀町で1箇所ずつ、合計2箇所を設定する									
H19	H20(当初予定していた目標)									
家具、住宅取扱業者で4社	紙の購入、その他商品の販売等で協力業者を募り30社へ									

<p>(9) 今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>最終 ← 2年後の取採量イメージ 2年後の組織イメージ</p> <p>伐採量 1,000m³ → 山 → 伐採量500m³</p> <p>山へかえず (山)</p> <p>お金だけを返すことが目的ではなく、金額に見合った労働や苗木などを提供することも含む</p> <p>「山へかえず」</p> <p>kikito 湖東地域の森林資源を循環利用させるためのマネジメント組織</p> <p>・湖東地域の森林資源を活かした商品を抱う各事業者から集められたお金でストック、普及啓発に必要な経費をまかなう ・山へ返すことの大切さを伝える普及啓発事業を担う</p> <p>協賛金 (パートナーA 直営事業, パートナーB 半直営事業, パートナーC ジョインターによる独立事業, パートナーD 資金出立事業)</p> <p>ブランド認定等</p> <p>2年後の取採金額試算</p> <table border="1"> <tr> <td>売上試算</td> <td>山へ返す金額試算</td> <td>約2億4,000万円</td> </tr> <tr> <td>3,000万円 × 7軒 = 2億1,000万円</td> <td>10万円 × 7軒 = 70万円</td> <td rowspan="3">約2億4,000万円</td> </tr> <tr> <td>150m³ × 20万円 (平均売上) = 3,000万円</td> <td>3,000万円 × 5.0% = 150万円</td> </tr> <tr> <td>合計 2億4,000万円</td> <td>合計 220万円</td> </tr> </table> <p>2年後の取採量イメージ: 伐採量500m³ → 山 → 製材 (歩留50%) → 製品 (住宅7軒、商品4種類)</p> <p>製材: 伐採量500m³ → 建築用300m³、家具等100m³</p> <p>製品: 製材 → 建築用150m³、家具等50m³、その他100m³</p> <p>最終売上 約5億円 → 1%として 約500万円</p>	売上試算	山へ返す金額試算	約2億4,000万円	3,000万円 × 7軒 = 2億1,000万円	10万円 × 7軒 = 70万円	約2億4,000万円	150m ³ × 20万円 (平均売上) = 3,000万円	3,000万円 × 5.0% = 150万円	合計 2億4,000万円	合計 220万円	<p>湖東地域材循環システム協議会が設立した当初のkikitoの全体像は、左図のとおりである。2年後の地域のイメージとしては、伐採量年間500m³、それから生まれる商品の総売上は、2億4,000万円を想定している。Kikitoの組織を通じて、山へかえる金額としては2年後に約220万円を目標とした。この目標を踏まえて、今年度地方の元気再生事業に取り組んだ結果、下記の成果を得られた。</p> <p><今年度の成果></p> <p>川上…2年後に年間500m³の安定供給が可能となるための現況調査を行い、スギ・ヒノキだけでなく雑木も想定した供給計画を策定できた。</p> <p>川中…建築材・家具材の製材について、規格化を行い、丸太を出来るだけ付加価値の高い商品へ転換するための仕組みが出来た。</p> <p>川下…地域ブランドとしてkikitoを決定し、地域のコンセプト「山へかえず」を伝えられる商品の開拓・製品の試作を行うことが出来た。また、二酸化炭素の森林吸収量認証の制度化やkikitoペーパーを通じて、これまでなかった企業と森林のつながりを具体化し、お金が返る仕組みの試行事業が成功した。</p> <p><反省点と改善点></p> <p>川上から川下までを一貫してプロデュースすることで、原木を無駄なく商品化することを目指して活動した結果、今年度は商品化、制度化、システムづくりが到達点となった。これらを地域に貢献するものとして定着させるためには、商品の流通・販売戦略、制度・システムの普及が重要である。そこで、商品の流通・販売を専門とする企業等との連携を視野に入れ、勉強会を開催しており、今後具体的に事業展開していく。なお、制度・システムの普及については、試行事業の成果をもって企業等へ働きかけを強化していく。</p>
売上試算	山へ返す金額試算	約2億4,000万円										
3,000万円 × 7軒 = 2億1,000万円	10万円 × 7軒 = 70万円	約2億4,000万円										
150m ³ × 20万円 (平均売上) = 3,000万円	3,000万円 × 5.0% = 150万円											
合計 2億4,000万円	合計 220万円											
<p>(10) 平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>湖東地域材を搬出・ストックするためのコストの削減</p> <p>地域の資源と技術を活かした新商品の普及・宣伝・販売戦略</p> <p>環境評価の導入手法および協力企業の掘り起こし</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>○持続可能な安定供給体制の整備 (H21～H22) 実施主体: 森林組合等 内容: 森林資源情報の集約化と森林認証の取得 【地方の元気再生事業の継続支援を希望 400万円】</p> <p>○ストックおよび加工の体制強化 (H21～H22) 実施主体: 森林組合、製材所等 内容: スtockヤードの施設整備 (リフト等必要機器の導入) チップパー、薪割り機、多軸モルダの施設整備</p> <p>○技術を受け継ぐための人材育成 (H21～H22) 実施主体: 湖東地域材循環システム協議会等 内容: 地域の雇用につなげるため建築、木工、森林整備技術の習得支援塾の開催 【地方の元気再生事業の継続支援を希望 200万円】</p> <p>○kikitoブランド販売戦略の強化 (H21～H22) 実施主体: 湖東地域材循環システム協議会等各種団体 内容: ①地域のシーズを活用したkikito版モデル住宅の整備 【環境省の21世紀型環境共生住宅のモデル整備による建設促進事業 1億円】 ②kikito改修体験スペースの設置 【地方の元気再生事業の継続支援を希望 500万円】 ③地域をつなぐkikitoメッセの実施 (インターネットと青空市場の融合) 【地方の元気再生事業の継続支援を希望 800万円】 ④新築・改修へのkikito材の利用促進 【滋賀県の木の香る淡海の家推進事業の活用】 ⑤kikito商品の幅広い普及啓発「木づかい運動」への参加 【林野庁の「木づかい運動」と連携】</p> <p>○びわ湖の森ローカルシステム検討と活用 (H21～H22) 実施主体: NPO法人カーボンシンク 内容: 木材を活用することの環境評価の新たなローカルシステムの検討 【地方の元気再生事業の継続支援を希望 200万円】</p>										

◆主な実施取組の内容◆

取組⑦持続的な森林資源の活用のための現況調査

実施主体:永源寺町森林組合等

実施内容・結果:

- ・箕川地区で境界の確定と森林資源量調査(面積60ha)
- ・上記調査に基づき伐採・供給計画の策定
- ・計画的な伐採に向け地域理解を得るためのノウハウが得られた



取組④材の規格化と性能評価

実施主体:淡海里の家事業協同組合等

実施内容・結果:

- ・地域材の調達からストックまで、地域に合った材の規格化の検討(原木:26m3、規格化:15種類程度)
- ・地域材の含水率、強度について試験を実施(滋賀県立大学と連携)



取組⑤地域材を活用した新築もしくは耐震改修の環境負荷概算と事業計画策定

実施主体:有限会社A.SITE等

実施内容・結果:

- ・既存データを基に、地域特性を踏まえた2タイプの改修プランの検討
普及型:ターゲット→在来工法住宅約40,000戸、3~5戸/年
フルセット型:ターゲット→古民家約15,000戸、1戸/1~2年
- ・改修効果検証
地域在来工法の実情を加味した耐震力改善度合い(限界体力法)
- ・環境負荷比較評価
CO2負荷(ウッドマイルズ)、材料調達と再利用・処理方法

取組③プロダクトデザインの提案

実施主体:滋賀県産間伐材有効利用促進グループ等

実施内容・結果:

- ・地域ブランド「kikito」の決定
- ・『kikito box』等の試作とコスト検証
地域の技術を集大成した『kikito box(贈答用の商品詰め合わせ)』、山(自然)に還す(還る)『kikito box final(ひつぎ)』



取組①kikitoペーパーの試作

実施主体:株式会社マルト等

実施内容・結果:

- ・kikitoペーパー事業システムの検討
森の町内会クレジット方式の活用(中越パルプ、コクヨ工業滋賀と連携)
- ・kikitoペーパー製品の試作
間伐材・端材等4t→kikitoペーパー4t
製品:ノート、封筒、紙袋



取組⑥環境評価のローカルルール検討

実施主体:有限会社A.SITE、NPO法人カーボンシンク等

実施内容・結果:

- ・「びわ湖の森CO2吸収量認証制度」のルールづくり
- ・CO2吸収量認証の試行事業実施
滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会



◆取組実施による成果・今後の展開◆

今年度は、上記各シーズ(芽)をベースに、川上~川下計8の取組について調査、モデル検討、試作・試験、試験販売等を各々進め、その結果、事業化につながる一定の成果が得られた。21年度以降は、○持続可能な安定供給体制の整備(森林資源情報の集約化と森林認証の取得)○ストックおよび加工の体制強化(ストックヤードの施設整備(リフト等必要機器の導入、チップパー、薪割り機、多軸モルダーの施設整備)○kikitoブランド販売戦略の強化(①地域のシーズを活用したkikito版モデル住宅の整備、②kikito改修体験スペースの設置、③地域をつなぐkikitoメッセの実施(ネットと青空市場の融合))等に取り組み、雇用の創出と地域経済の再生を目指す。